ひょうご
緑の募金
みどりの風
2012.3
No.32
（題字　井戸敏三会長）

自然と共生してきた日本人・豊かな森林を未来につなげよう

平成23年度緑化作品コンクール 入選作（1席　富山睦月　兵庫県立姫路工業高等学校）

四季に恵まれた日本列島に、今年も野山に命の息吹が感じられる季節が巡ってきました。日本は国土の約3分の2が森林で覆われている先進国ではまれな森林国です。世界の多くの地域では、文明の進化とともに森林が破壊されてきました。環境考古学を創始した国際日本文化研究センターの安田喜憲教授は、いまは岩山だらけのギリシアなど地中海沿岸もかつては深い森に覆われていたことを明らかにしました。

日本人は古来から山川草木、森羅万象に神が宿るものと考え、自然を畏れ敬い、人間は自然の一部だと考え、共生してきました。このような日本人が縄文時代以来持ち続けてきた自然観ゆえに、美しい緑豊かな国土が引き継がれてきました。

昨年3月11日に発生した東日本大震災は、我が国の社会経済に深刻な影響を及ぼしています。また、相次ぐ台風の襲来等により土砂崩れなどが発生し甚大な被害をもたらしました。被災地の一日も早い復興を祈念するものです。

このような頻発する大災害による被害を目の当たりにして、私たちは自然を人間の都合の良いようにコントロールできるものではない、科学技術も万能ではないということを思い知らされました。いま日本人は自然と対峙するのではなく、自然に順応するかたちで共生してきた原点に改めて立ち返るときだと思います。

私たちは山といえば木が茂っているのが当たり前に考えていますが、少し歴史をさかのぼれば森林が荒廃していたこと、森林を守り育ててきた人々の取組みがあったことは明らかです。江戸時代から明治時代は最も森林が荒廃していた時代でした。国土緑化運動は昭和25年に始まり、62年目になります。国土の緑化に取り組んできた結果、いま日本は量的には400年ぶりに豊かな森林を手にしていると言われています。

しかし、厳しい林業の現状から放置され荒廃が心配されています。森林が荒廃すると、その回復には長い時間と多くの労力を要します。自然の恵みを将来にわたって受け続けるために、私たちの子孫に健全で豊かな森林を引き継いでいくことが大切です。

また、東日本大震災からの復興にあたっては国民全体で取組むべきだとの考えから、全国の緑化推進委員会が協力して「緑の募金」で被災地の防災林等の復旧などを支援していくこととしています。

豊かな森林に覆われた美しい国土を築いてきた先人の努力を受け継ぎ、未来につなげるために、この課題を社会全体で共有し、国民参加の森林づくりの輪を広げたいものです。

公益社団法人国土緑化推進機構 常務理事　青木正篤

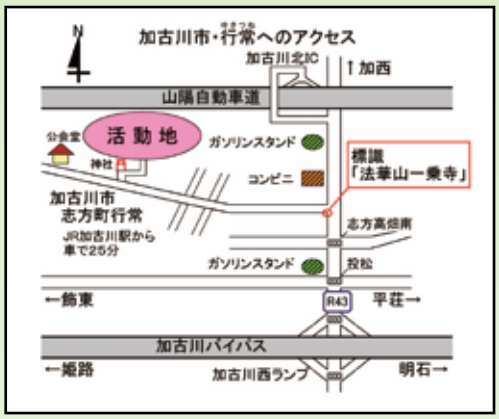
生きもの豊かな「行常の森」つくり

加古川市「行常しあわせの森つくり協議会」、「NPO法人ひょうご森の倶楽部・行常チーム」

行常の里

行常は55世帯・人口175人の小さな集落です。集落を突っ切る一本の街道、田圃、畑、多くの溜池等を前景に、北側の背後は標高200mの急峻な山地です。山地の上部は二次樹木林、麓は広大な竹林からなります。

山水は多くの溜池を経由し農地で活用され、あるいは「法華山谷川」の源流となり、16kmを旅して瀬戸内海に注がれます。



森を手入れしよう！

長い間放置されてきた樹林や竹林は暗く、老いて、人との関わりも拒んできました。しかも山水が流れ込む溜池の水質悪化や山地土壌の崩落が顕著になってきました。

これ等問題の解決には「森の手入れ」をしなければならないと決意し、2006年に住民による「協議会」を立ち上げました。県の「住民による里山林整備事業」の助成を受け、幹線作業道を造り、又「NPO法人ひょうご森の倶楽部・行常チーム」の協力で「森づくり」の基礎学習をし、先進地の見学をしました。2007年4月から毎月第3日曜日を「森の日」とし、「里人」と「行常チーム」の「街人」が協働しヴォランティア活動を開始したのです。

高さ25mの不用な竹を伐る

竹林と樹林の手入れ

毎シーズン11月から翌年３月まで、「ヤブ蚊」のいない時期に竹林の手入れをします。「行常の竹」は成長良く高さ25m・直径20cmに達します。倒竹・古竹など不用な竹を伐って、林内に「光と風」を入れます。大量の伐竹は大型移動機械で５mm程のチップにし、畑の土壌改良材などに活用します。

樹林の手入れは４月から10月に常緑樹やシダを主体にした除伐や道づくりをします。5年間の実績は竹林整備面積≒３ha、樹林整備面積≒1.5ha、散策道造り≒4km、植樹≒300本でした。

伐った竹を大型移動機械でチップにする。

「行常」独特・「竹林コンサート」

森の巨大ハンモック遊びに夢中です！

活動記録は下記HPを検索し、ご覧下さい。

ひょうご森の倶楽部　行常

森の恵みを楽しむ！

夏も冬も額に汗して活動を続けられる理由の一つは森の恵みです。「竹林コンサート」や巨大ハンモック遊びは「行常」独特です。竹炭焼き・ホンシメジ植菌・果樹園作り・タケノコ狩りなど工夫をこらして大いに楽しんでいます。

「里人」と「街人」の協働

「行常の森」に5年間に「里人」と「街人」約3,500人のヴォランティアがやって来て、汗を流して協働しそして互いの接触を通じて元気をいただいております。

生きもの豊かな森づくり・そしてこれから

竹林・樹林には「光と風」が入って、鳥や蝶が遊び、林床には多様な草花が生え、積上げた竹チップの中ではカブトムシの幼虫が育つなど「森の生きもの」が元気になりました。山水は改善されました。高さ25mの「緑の垂直線」が立ち並ぶ竹林や、山頂から望む四季を彩る「里」の風景は実に美しい。

私たちは活動を「シブトク」継続し、一般市民や企業人が「森」と向き合うことの大切さと楽しさを実感できる「場」を創っていきたい。

経歴　2011年　県「ひょうごの生物多様性保全プロジェクト」認定
　　2011年　県知事表彰「平成23年度森づくり活動賞」を受賞

県下の緑化推進委員会を訪ねて

シリーズ⑥

<たつの市緑化推進委員会>

たつの市緑化推進委員会は、平成20年に設立されました。事務局は市農林水産課内に置き、自治会の協力で家庭募金を中心に活動を実施しています。

主な取り組みは、募金の還元として、各自治会の要望に応じて苗木、緑化資材、門松カードの配布を行っております。

また、市内において緑化活動を行う団体にも要望に応じて助成を行い、今後も幅広く緑化推進活動を行っていく予定です。

平成23年度緑化作品コンクールの結果

緑化思想の高揚を図るため、県下の小学校の児童並びに中学校及び高等学校の生徒を対象にコンクールを実施しました。

応募点数は、緑化ポスター原画の部2,832点、緑化標語の部407点、そのうち入選点数はポスター原画の部33点、標語の部20点でした。特に優秀な作品をご紹介します。

〈ポスター〉

小学生の部1席

播磨町立蓮池小学校
3年　百田　壮真さん

中学生の部1席

加古川市立浜の宮中学校
3年　中谷　莉奈さん

高学生の部1席

兵庫県立姫路工業高等学校
1年　富山　睦月さん

＊国土緑化推進機構理事長賞＊

播磨町立播磨西小学校
3年　岩元　涼音さん

播磨町立播磨西小学校
5年　嶋﨑　悠太さん

〈標語〉

小学生の部1席

姫路市立林田小学校　3年　勝本　帆南さん

「芽がでたよ
命がひとつ　生まれたよ」

中学生の部1席

加古川市立両荘中学校　1年　神澤　侑輝さん

「つなげよう
次の世代へ　緑のバトン」

高学生の部1席

兵庫県立農業高等学校　1年　山口　郁実さん

「増やそうよ
きれいな緑とあなたの笑顔」

県上位作品を(公社)国土緑化推進機構が開催する全国コンクールに応募した結果、岩元涼音さん、島﨑悠太さんが入選しました。

お知らせ

本年１月スタートしました新体制の委員、役員をご紹介いたします。

運営協議会委員

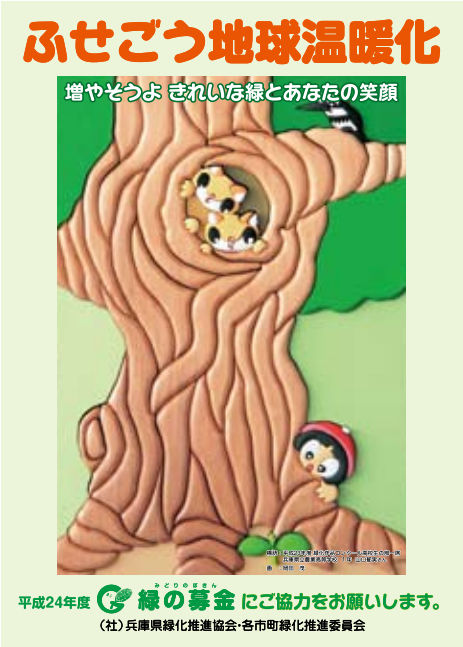
委　員	氏　名	所属団体等
（委員長）	上羽　慶市	兵庫県教育委員、神戸親和女子大学教授
委　員	服部　　保	兵庫県立大学教授、県立人と自然の博物館自然・環境再生研究部長
委　員	平田富士男	兵庫県立大学大学院教授、県立淡路景観園芸学校校長
委　員	北野美智子	県連合婦人会会長
委　員	原　　仁美	神戸市婦人団体協議会会長
委　員	村田　泰男	県商工会議所連合会専務理事
委　員	安平　一志	県商工会連合会専務理事
委　員	江見　　淳	コープこうべ環境推進室　統括部長
委　員	桑田　　結	兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会会長
委　員	堀田　品子	ひょうご森のインストラクター会副会長
委　員	浦杉　圭作	（社）兵庫県林業会議事務局長

＊委員長、副委員長は委員の互選により選出されます

役員（理事、監事）

役　員	氏　名	所属団体等
理事長	佐藤啓太郎	県環境部長
副理事長	藤田　邦夫	西宮市副市長
副理事長	岩佐光一朗	県連合自治会副会長
常務理事	宮﨑　伸雄	（社）県緑化推進協会事務局長
理　事	細岡　重義	神河町副町長
理　事	高梨柳太郎	神戸新聞社執行役員、地域活動局長
理　事	高品　藤吉	県農業協同組合中央会常務理事
理　事	上原　利信	県森林組合連合会専務理事
理　事	山口　徹夫	県漁業協同組合連合会専務理事
理　事	石原憲一郎	（財）県園芸・公園協会理事
理　事	門上　幸子	（有）門上環境計画事務所代表
監　事	山下　　晃	（社）神戸銀行協会専務理事
監　事	中島　孝雄	兵庫森林管理署長
監　事	杉本修一郎	県土地改良団体連合会常務理事

「緑の募金」にご協力をお願いします



森や緑は私たちの暮らしに限りない恵みをもたらし、豊かな地球環境を残してくれています。

このかけがえのない森と緑を守り育てていくために、「緑の募金」として家庭募金、学校募金、職場募金、街頭募金、団体募金、企業募金を県下各地域で行っています。

ご寄付の方法

ご協力いただく募金は、金額の多少を問わず次の金融機関へ振込をお願いします。

- **郵便払込**
  （社）兵庫県緑化推進協会の「払込取扱票」を使用してください。（払込料金は無料）
- **銀行振込**
  口座：三井住友銀行兵庫県庁出張所
  普通 3198438（振込手数料が必要）
  名義：社団法人　兵庫県緑化推進協会

募金の期間　春　3月1日～　5月31日　秋　9月1日～10月31日

（社）兵庫県緑化推進協会
〒650-0012
神戸市中央区北長狭通5丁目5−18
TEL　078（341）4070　FAX　078（341）4071
URL：http://www.hyogo-green.net/

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
VEGETABLE OIL INK